

# 日本におけるドイツ学術交流会（DAAD）

ドイツ学術交流会（DAAD）東京事務所 所長 ホルガー・フィンケン

Dr. Holger Finken

キーワード： 学術交流、留学関係機関、ドイツ

## DAADの使命と目標

ドイツ学術交流会（DAAD）は、学生及び研究者の国際交流のための世界最大の支援組織です。DAADは、ハイデルベルクの学生達と、後にハーバード大学教授となったカール・ヨアヒム・フリードリッヒ氏の主導により1925年1月1日に設立されました。以来DAADは、150万人を超える国内外の大卒者に対して助成を行ってきました。

DAADは、ドイツの大学と学生団体により組織されています。DAADの予算は、主に外務省及びその他省庁の連邦予算から、また欧州連合のほか様々な企業や組織、外国政府からも拠出されています。本部はボンにありますが、そのほかにも首都ベルリンに事務所を設置しており、ここには知名度の高いベルリン芸術家プログラムの担当部署も併設されています。14の在外事務所と50のインフォメーションセンターを通じて世界中の最重要パートナー諸国とのネットワークを構築し、また、現地で相談業務を行っています。

2011年にDAADの助成を受けたドイツ人と外国人は、世界中で70,000人に上ります。助成の対象は、学部生の留学、博士号取得を目指す留学、海外インターンシップ、客員講師、情報調査、外国での大学設立など、多岐にわたります。助成を決定するのは、国内外の大学教官から構成され、名誉職として活動する独立した選考委員会です。この委員会の委員はDAADの理事会によって任命されます。DAADはマーケティング・サービス、出版、イベント、研修を通じてドイツの大学の国際的な活動を支援しています。

数年前からDAADは「交流で世界が変わる（Change by Exchange）」という標語を全組織的に掲げています。この標語の下、DAADは次の3つの主要テーマに取り組んでいます：

最も優秀な人々のための奨学金：

優秀な学生や研究者に対する助成は常に大きな成果を上げていますが、DAADはさらに、将来専門的及び指導的立場に立つ方々が国際交流の理解のもと、活動できるよう支援し、全世界との持続的な結びつきを創出したいと考えています。DAADは、奨学生や同窓生による専門的・文化的なネットワーク構築をより一層強力に支援していきます。

世界に向けて開かれた構造：

DAADは、大学がそれぞれ独自の国際化戦略を実現するために利用できる助成プログラムを提供します。世界で活躍する学生にとって主要な受入国であるドイツの地位を維

持するためには、2020年までに350,000人の外国人学生を受け入れる必要があります。また、その成績をドイツ人学生と同レベルに高めることも必要です。また、2020年までに、ドイツ人大卒者の2人に1人が在学中に多くの国外経験を積むことが目標とされています。DAADは、学術言語としてのドイツ語の地位を守ると同時に、どの分野においても多言語主義を支持しています。DAADは、欧州の大学及び研究の領域においてその一翼を担っています。

学術交流のための知識：

DAADは、世界における大学間の協力関係と学術制度に関する総合的かつ多様な知識を有しており、これがDAADの活動の基盤となっています。この点でDAADは、専門家である職員の経験と在外事務所、インフォメーションセンター、講師の世界的なネットワークを活用することができます。この知識は絶えず更新され、関係者の戦略的意思決定のために提供されます。こうした知識があるからこそ、DAADは学術制度の国際化推進機関としてのその機能を、より一層強力に果たせるようになるのです。

## 日本の DAAD

学術における日独関係において、DAADの奨学生は常に重要な役割を果たしています。既に第二次大戦前から、DAADは日本人留学生36名、およびドイツ人留学生18名に奨学金を支給していました。日本人奨学生第1号は、1999年5月に亡くなった東山魁夷画伯でした。

戦後1950年8月5日にDAADは再興され、1952年には早くも第一陣のDAAD年間奨学生が日本からドイツに到着しました。その中には、後にDAAD友の会を日本で設立し、その初代会長となった医学教授の吉田久氏も含まれていました。

DAAD 東京事務所は1978年に設立されました。初代所長のウルリッヒ・リンズ氏は、その後も1999年から2004年まで再度所長を務めています。現所長は私、ホルガー・フィンケンが務めています。

DAADの幹部は定期的に日本を訪れています。例えば、ドロテア・リューラント事務総長は、日本外務省の招請を受けて2012年2月に来日しました。滞在中、リューラント事務総長は、日本の外務省と文部科学省のほか、日本学術振興会（JSPS）、



筑波大学とドイツ学術交流会（DAAD）とのパートナーシップ・プログラムに関する協定を締結 2012年2月：写真前列右：山田信博筑波大学長、写真前列左：ドロテア・リューラント DAAD 事務総長、写真後列左端：ホルガー・フィンケン DAAD 東京事務所長

東京大学、東京工業大学、また、東京、京都、仙台のその他の大学など、提携機関や大学を訪問しました。筑波大学では、DAADと日本の大学との間の「マッチング・ファンド」による初めてのパートナーシップ・プログラムに署名しました。

そして、70年代に入ってから、ドイツに留学する日本人学生の数が急増しました。現在、ドイツの大学では約2,140名の日本人学生が学んでいます。そのうち47%は人文・社会科学系、36%は音楽・芸術系、また17%は自然科学・工学系の学部にて在籍しています。

日本の大学では、2012年12月の時点で569名のドイツ人学生が在籍していました。これは今までの記録を更新する最大値であり、2011年の東日本大震災による落ち込みを完全に帳消しにするものでした。正規に学籍登録したドイツ人学生162名のうち、50%は人文・社会科学系、25%は自然科学・工学系、3%は音楽・芸術系の学部にて、また22%は留学生のための特別プログラムに登録しています。

特に挙げておかなければならないのが、1984年にDAADが創始した「日本語学習と企業内研修」プログラムです。このプログラムは、法学、経済学、自然科学または工学の修士課程を優秀な成績で修了したドイツ人を対象としています。奨学金は、ボーフム大学内の州語学学校の入門コース、長沼スクール東京日本語学校における10か月弱の語学レッスンと、それに続く8か月間の日本企業での実習をカバーします。授与される奨学金は年に10件です。既に320名近くがこのプログラムを修了し、その過半数は日本、ドイツ、欧州の企業で重要なポジションに就いています。

大学学長会議（HRK）の統計（2012年）によれば、ドイツの大学115校と日本の大学179校との間に合計452件の提携関係が結ばれています。現在DAADは、独日の大学のパートナーシップ15件を支援していますが、このうち4件はドイツ、日本、韓国の三国間の大学提携です。2011年には、助成を受けた日本人研究者計702名がドイツに、また279名を超えるドイツ人研究者が日本に渡りました（日本学術振興会の統計2012）。

DAAD東京事務所は、日本の大学で教えるおよそ250人のドイツ人講師に対し、定期的な情報提供イベントやシンポジウムのほか、DAADの資料を提供することによってサポートをしています。2008年には、ドイツ人講師有志30名とともに全国レベルの「DAAD留学アドバイザーネットワーク」を発足させました。これらのアドバイザーは自身の大学でDAAD奨学金やドイツ留学について説明し、また、DAAD東京事務所と密接に連携してドイツ・デーなどの情報提供イベントを企画・実施しています。

DAADは2000年10月より、東京大学駒場キャンパスのドイツ・ヨーロッパ研究センター（DESK）に対して助成を行っています。同センターにおいて東京大学は特にハレ大学と協力しています。DESKの欧州研究プログラム（ESP）には日本の欧州研究における一つの修士課程が設けられています。

### DAAD奨学金プログラムと日本人大卒者のための学術賞

2006年以降、日本において最も重要なDAAD奨学金プログラムは、「学部卒業生・大学院生および若手研究者のための研究・留学奨学金」という統一プログラムです。この奨学金は、

- ・ドイツでの博士号取得
- ・日本で博士号を取得するための研究
- ・ドイツでの卒業を目的としない研究
- ・ドイツでの修士号取得

という4つの目的のために利用することができます。

留学機関が6カ月以内である短期奨学金は随時 DAAD 東京事務所で受け付けています。留学機関が7～36か月である長期奨学金は毎年秋に締切があります。選考は、日本人とドイツ人の教授からなる選考委員会が行います。

同奨学金の応募件数は増えており、2013年度の応募件数は前年比13%増の88件でした。2013年度の学部卒業生・大学院生及び若手研究者のための研究・留学奨学金は14名に、芸術・音楽系学科専攻者向け奨学金は5名に授与されました。

応募者数が増加しているということは、DAADの学部卒業生・大学院生及び若手研究者のための研究・留学奨学金が日本の若手研究者にとって魅力的であり続けていることを示しており、実際に、優秀な方々から多くご応募いただいています。

日本向けの DAAD の奨学金には、このほか夏期・春期講座、語学研修、学生グループ研修、元奨学生再招待のための奨学金があります。

DAAD はまた、日独の学術交流において優れた業績を上げた方に授与される格式高い2つの賞にも関与しています。

ひとつめは、1978年のドイツ連邦共和国大統領の日本への公式訪問を機に開設されたフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞（賞金5万ユーロ）で、DAADは、ドイツ大使館と共にフンボルト財団のために同賞の選考を行っています。この賞は、日独両国の文化と社会の相互理解の推進に特別な功績をあげた日本人研究者に毎年贈られます。

もうひとつは、2009年から提供しているドイツ・イノベーション・アワード(GIA)（または「ゴットフリート・ワグネル賞」）であり、ドイツの大手技術系企業10社、在日ドイツ商工会議所、ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京により、特に環境、エネルギーおよびメディカルエンジニアリングの各分野における優れた日本人研究者に対して毎年贈られています。DAADはGIAのパートナーとして、ドイツの大学または研究施設に滞在するための奨学金を受賞者に提供しています。

### 日本と東アジアにおける活発な同窓会活動

日本の DAAD 同窓生の中には、世界で名の知られた人々が数多くいます。1934年～1935年の DAAD 奨学生第1号は、20世紀の最も有名な日本人画家、東山魁夷画伯でした。ノーベル文学賞受賞者の大江健三郎氏は DAAD のベルリン芸術家プログラムの奨学生でした。また、ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊氏もその研究の一部をドイツで行い、当時、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団のフンボルト賞を受賞されています。

DAAD 元奨学生の会である「DAAD 友の会」は、1985年3月28日に設立され、日本の約4000名の元 DAAD 奨学生のうち、およそ1,100名が DAAD 友の会会員です。日本は何

十年も前から模範的なドイツ同窓会活動を行っています。非常によく組織された同窓会が5団体あり、その最大のものが会員およそ1,100名のDAAD友の会と会員およそ800名の東日本アレクサンダー・フォン・フンボルト協会です。これらの団体は、実に良く組織された団体構造の中で緊密に協力し合っています。多数のプログラムの企画準備や調整を担当する重責を担う秘書ポストが共同で設けられており、長年にわたって関映子さんがこれを担当しています。

DAAD友の会の現会長は、音楽学研究者の樋口隆一明治学院大学教授です。同教授の



写真右:DAAD友の会名誉会長 石川明 慶應義塾大学  
名誉教授、写真左:ホルガー・フィンケン DAAD 東京事務所  
所長

前任者として長く会長を務めた現在の名誉会長は、法学者の石川明慶應義塾大学名誉教授です。石川教授は、日独交流150周年の年である2011年の11月3日に、その活動をたたえ、DAADのマックス・フーバー副会長(当時)からDAAD顕彰メダルを授与されました。

日本のDAAD同窓会は国内だけでなく地域的規模でも活発に活動しており、2012年3月には、日本、韓国、台湾出身のDAAD同窓生が共に集う会合が初めてソウルで開催されました。

### ドイツの大学とDAADの助成手段に関する情報

DAAD東京事務所の業務では、情報の発信により重点が置かれるようになっており、日本人にドイツの大学や研究拠点に関する情報のほか、ドイツの機関や個人に対して日本の大学分野の動向に関する情報も発信しています。DAAD東京事務所は、様々な留学フェアに毎年参加しています。例えば日本学生支援機構(JASSO)の留学フェアのほか、東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、東北大学、上智大学、中央大学ほか多数の大学で開催される留学フェアなどがその例です。それに加えて、DAADアドバイザーが企画する4~5日間のドイツ・デーも開催されており、2012年には横浜、松山、岡山で行われました。

2011年5月には、駐日欧州連合代表部とブリティッシュ・カウンシル、フランス政府留学局、そしてJASSOのような日本のパートナーとが連携し、欧州留学フェア(EHEF)が初めて日本で実施される予定でしたが、これは、2011年3月11日の東日本大震災を受けて延期となりました。第1回欧州留学フェアは、その1年後の2012年5月10日と11日に東京の明治大学で、また5月12日に神戸大学で開催されました。このフェアでは、日本人学生や博士号取得希望者は、欧州の大学の担当者から直接説明を受け、欧州留学に向けて大いに心を動かされていました。このフェアには1200名が来場し、大成功を収めました。日本での第2回欧州留学フェアは2013年5月17日と18

日に再び明治大学で、19日には京都の同志社大学で開催されます。

欧州関係のもう一つのイベントは、2012年11月21日から23日に東京と京都で開催された欧州博士課程留学フェア「PromoDoc」です。エラスムス・ムンドゥス計画の一環である「PromoDoc」プロジェクトを通じて、EUは、欧州域外の先進国において欧州への博士課程留学の志願者を募っています。日本の留学希望者とイベントに参加した欧州の大学19校は、事前にオンラインツールを使って連絡し合っていました。残りの半数の人々は、その場で情報を収集しました。合計で約350件の個別面談が行われました。

## 展望

DAADは、「交流で世界が変わる」という標語のほかにも、常に年間テーマを掲げており、2013年の年間テーマは「世界規模で築く持続可能性」です。このテーマを受けてDAAD東京事務所は、ドイツ大使館とドイツ連邦教育研究省の支援を受けて2013年4月6日、東京大学農学部において「日本とドイツ、そして世界のさとやま環境」と

いう独日シンポジウムを企画・実施しました。東京大学に加え、国連大学と慶應義塾大学のほかその他の日本の大学や機関も、またドイツ側からはマールブルク大学とギーセン大学も参加しました。

2013年にDAAD東京事務所が開催する最も重要なイベントの一つとして、2013年6月1

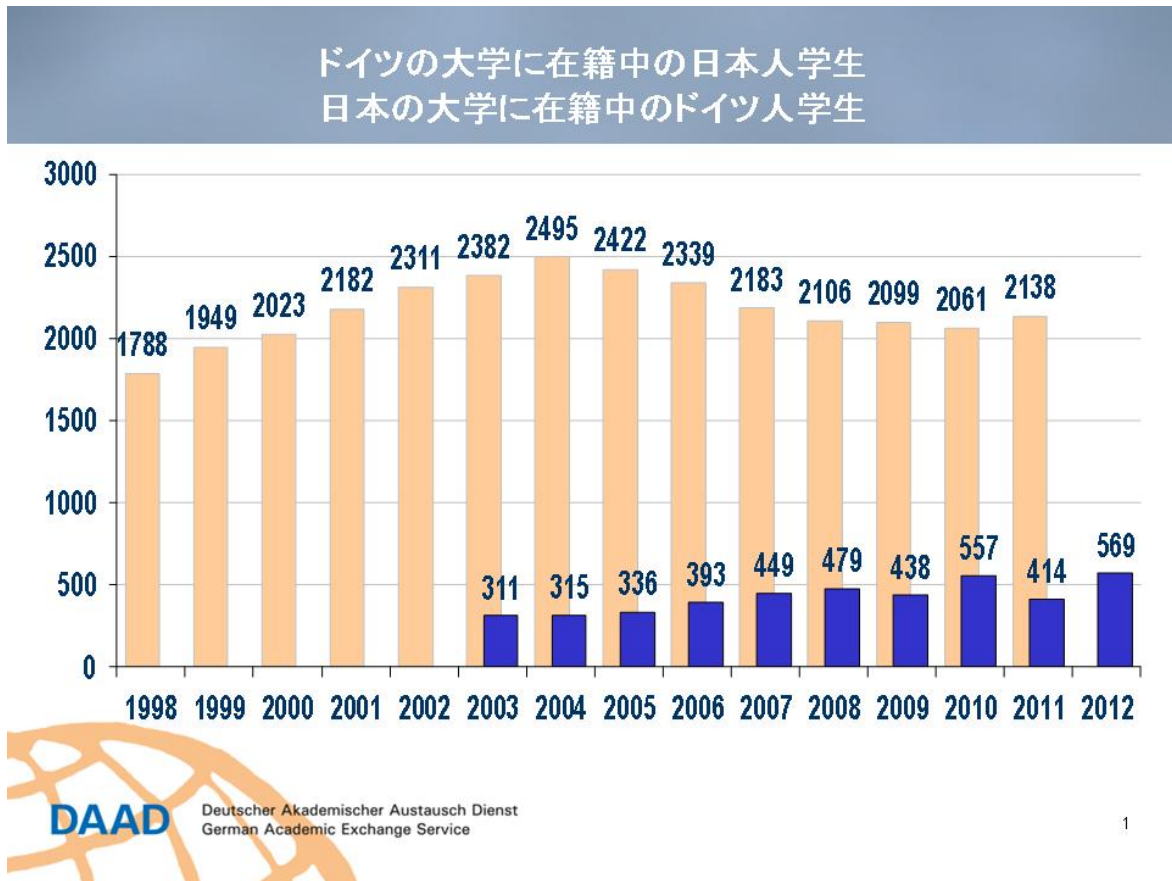
日のDAAD東京事務所35周年記念および「日本学習と企業研修プログラム」30周年記念のDAADアルムニ会が挙げられます。日独両国から200名を超える参加者を見込んでいます。2013年の末頃には、ドイツ科学・イノベーションフォーラムの一環として、日本で初めてジャーマン・サイエンス・デーが京都大学で開催される予定です。



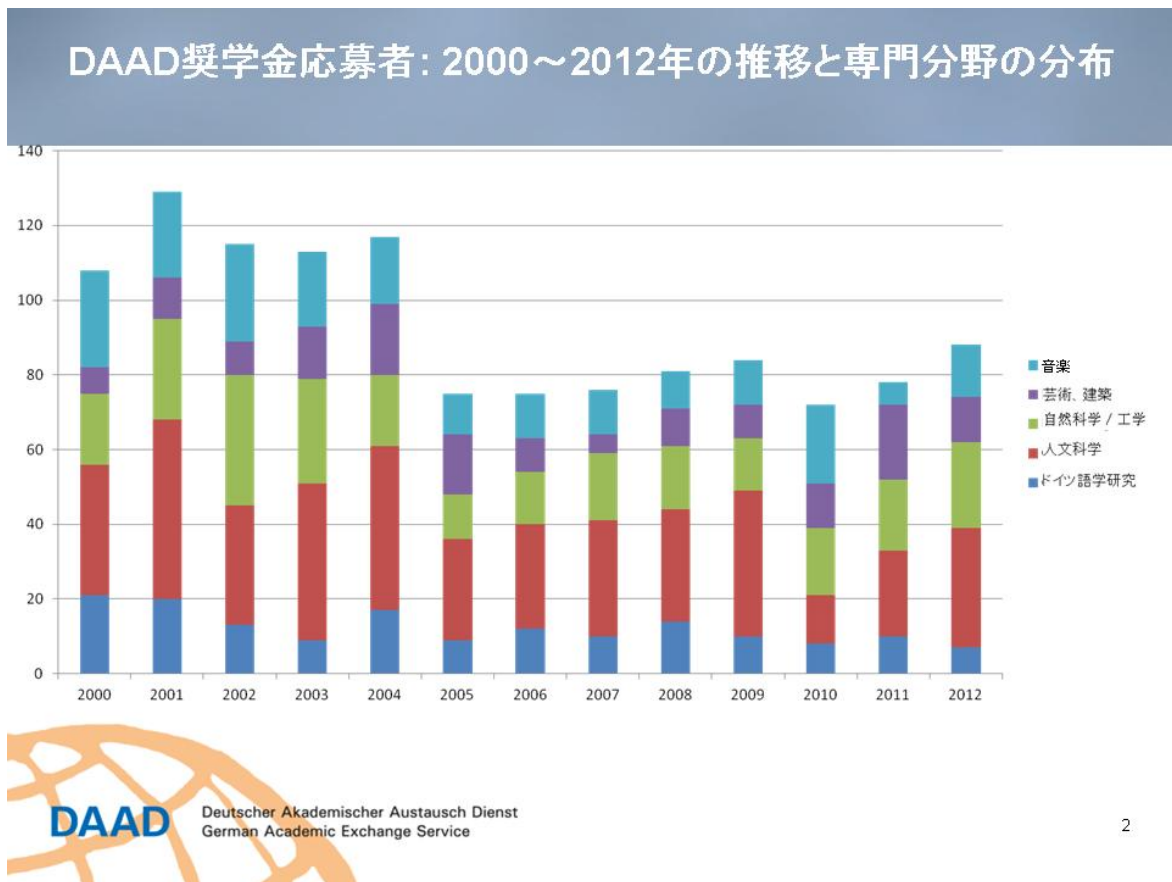
独日シンポジウム「日本とドイツ、そして世界のさとやま環境」

2013年4月6日 東京大学にて

巻末資料：

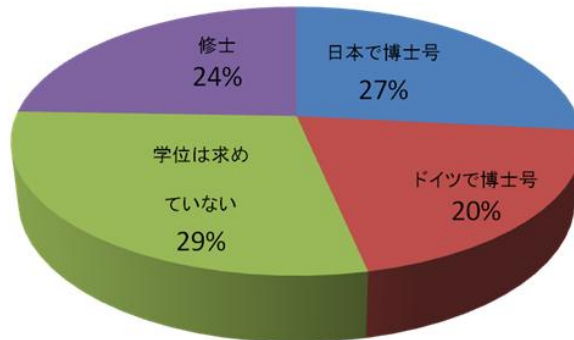


1



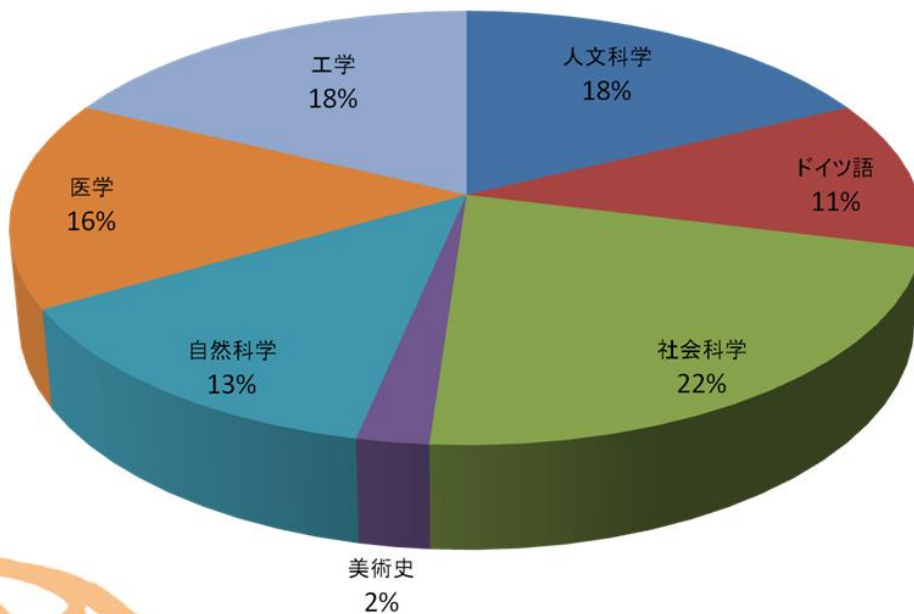
2

DAADの学部・修士/博士課程修了者のための奨学金応募者：  
取得目標の修了資格（2012年）



3

DAADの学部・修士/博士課程修了者のための奨学金応募者：  
専門分野の分布（2012年）



4





# 欧州留学フェア2013

Study and Research in Europe: Quality - Diversity - Opportunity

駐日欧州連合代表部  
欧州委員会  
教育・文化総局



Delegation of the European Union to Japan  
Directorate-General for Education and Culture  
European Commission

## GO GLOBAL, GO EUROPE



約50のヨーロッパの高等教育機関が来日します。ヨーロッパ留学について直接何でも聞いてみよう!

入場無料  
予約不要  
対象: 大学生  
大学院生  
高校生  
社会人



### 東京会場

明治大学 駿河台キャンパス  
 2013年5月17日(金) 12:00-20:00  
 2013年5月18日(土) 10:00-16:30

### 京都会場

同志社大学 今出川キャンパス  
 2013年5月19日(日) 12:00-18:00



ご挨拶

---

スケジュール

---

日時・場所

---

参加大学・機関

---

お問い合わせ

---



Study in Europe













Deutscher Akademischer Austausch Dienst  
 German Academic Exchange Service

5